

令和３年度第５回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

- １．開催日時 令和４年１月１２日（水） 午前９時００分～１１時３０分
- ２．開催会場 印西市役所３階大会議室
- ３．出席者 粉川一郎委員長、小林宏委員、安倉史典委員、林典子委員、矢野眞理委員、藤澤進委員、奥田信康委員、足立秀一委員、志村はるみ委員、坂本富彦委員
(以上１０名)
- ４．事務局 市民活動推進課 伊藤課長、伊藤課長補佐、富田係長、伊藤、榎田
株式会社アイアールエス
- ５．傍聴者 １名（定員５名）
- ６．会議内容
 - １ 開会
 - ２ 議題
 - (１) (仮称) 印西市地域コミュニティ基本方針素案について
 - (２) 令和３年度及び次年度の企画提案型協働事業について
 - (３) その他
 - ３ 閉会

７．会議要旨

２ 議題

(１) (仮称) 印西市地域コミュニティ基本方針素案について

《事務局報告》

資料１－１、資料１－２、資料１－３及び当日配付資料により、(仮称) 印西市地域コミュニティ基本方針素案について説明した。

《委員意見》

○委員長

事務局より説明があったが、事前配布された際、委員よりアンケートのクロス集計の必要性について指摘があったが、どのように対応されたか確認させていただきたい。

○事務局

クロス集計の結果はもっており、一部その結果は素案の中に入っている。

○委員長

クロス集計は実施をしており、この資料にはそれは含まれていないが、素案の中にその要素が反映されているということか。

○事務局

資料１－２をご覧いただくと、基本的な項目のクロス集計として、年齢別は少し細かめに、地域別

は捉え方が非常に難しいことから、印西市が行った市民満足度重要度調査に合わせて、ニュータウン地域・ニュータウン地域外という括りで、これだけを基本クロスとして記載している。この他に、もう少し詳しい地域別を出していることと、活動への参加状況、具体的には、「町内会・自治会に参加している」、「市民活動に参加している」、「両方に参加している」、「いずれも参加していない」の4つにカテゴライズしている。地域の繋がりについて重要に思うかどうかの問いでもクロス集計を出しているが、それは相当分量が多くなるのと、捉え方をどうするか一度こちらで協議をして公開する。委員の皆さま方のご要望に応じて、事務局とのやり取りでご覧いただけることが適切ではないかと考えている。

○委員長

大事なものは、例えば男女の別であったり、ニュータウン地域とそれ以外のところでどういう差異があるのかを我々にインプットした上で議論すべきだと思う。

○事務局

一番代表的な項目として、具体的には素案9ページになる。こちらで分析をした大きな傾向だが、既存地域、ニュータウン地域を比べただけでも、住民の課題認識が相当違うことがわかる。一方で、地域の課題解決が進んでいるか、住民が半日時間を提供することについて賛成か、をあわせて記載している。ここでは思ったより大きな差がないことがわかる。これは一様に他の項目についても共通しており、小さな差はあるが、その差が地域性によるものなのか、あるいは人口構成によるものなのか、住民活動が盛んな場所なのかという切り口まで及ぶと、非常に膨大な分析が必要になると思われる。全体的に地域の課題認識が大きく違っていても、住民活動への姿勢にそこまで違いはなかった、と分析結果としてお示しするために9ページを編集している。

○委員長

男女の別についてはどうか。

○事務局

男・女は大事な項目だが、実はアンケート結果では項目をとっていない。それをどのように捉えたらいいのかわからないが、地域活動では性別の違いがあることを認識した上で、その後性別による違いを政策に落としていくかどうかについては、出来るだけ性別の違いを意識しない政策にしていこうと考えている。この項目は落としてもいいのでは、と調査の始めに決めた経緯がある。果たしてそれがよかったかどうか、今後施策を進める中で別途調査をする等課題として認識するべきものだと考えている。

○委員長

ご提案頂いた委員から、提案された趣旨と回答についてコメントはあるか。

○委員

中身については詳細に整理されており、わかりやすくなったと思う。クロス集計についても重要だと考えており、特に現地で課題と感じていることを見ても、地域の違いが大きいと思う。個人的には、この先印西市が発展していく中で、子育ての部分などが継続していくことが重要だと思うので、男女の意見の別は把握した方が良いと思う。

○委員

地縁団体がベースとなることが記載されているが、活動している団体がいないエリアがあることは矛盾するのではないか。何も活動がないエリアに対してどのような活動をするのかが疑問に思う。地縁

団体ということで、町内会に加え、自主防災組織、地域住民に関わる住民主体の活動組織と書いているが、そういった活動がまったくないエリアもあると思うので、調べたうえでの文言となっているのか疑問に感じた。

また、団体に属したくない人も沢山いると思うので、そういう人たちに対する文言が必要なのかと思う。コミュニティを作って印西市を盛り上げるということが前提になっているが、個人主義の方もあるので、ケアやフォローの文言を入れた方が良いのではないか。地縁の繋がりを基本に、という部分には今一つ納得できなかったところがあるので、その辺を明らかにしたうえで、このような文言を使用した方が良いと考える。

また、わかりにくい表現や曖昧な表現が文章中見受けられる。例えば20ページの課題認識に出てくるが「～が期待されます」は誘導的な文言ではないかと考えるし、21ページの施策の方向に「自然に」や「図っていきます」といった記載が曖昧だなと感じた。23ページの課題認識「モチベーションを高め」は、耳障りはいいが、他に適切な表現はないか。その下の施策の方向中「多様な人々の参加したくなる機会づくり」も曖昧かなと思う。24ページの①の課題認識中「地域に固有の資源や課題」とあるが具体的に何か。また、25ページ「地域が主体的に考えていくためのベースとしても重視していきます」とあるがベースとは何か。同ページ③の課題認識中にある「コーディネート」とは何か。色々な方が見ると思うので、もう少しわかりやすい表現、他の表現方法を精査された方が良い。

○事務局

地縁団体が無いエリアへの対応については、従前町内会の切り口でしか、市からアクション出来なかったが、例えば防災や防犯に関しての意識が高い地域については、そういった切り口から、アプローチしていきたいと考えている。地縁団体については、一般的な町内会・自治会だけでなく、地縁に基づく組織も含めて定義づけをしている。表現については、文言は見直し等を含めて修正したい。

組織に属していない方への対応については、地域コミュニティをつくるにあたり、方向性を示すものとして今回は全般的な話しとしてまとめたいと考えている。個々のものというよりは、既に団体があるものに対して、また、組織が成立していない所への対応については、組織を作っていただき、事業については別途行うとして、あくまでも方向性を見いだすもの、全体的な話しとして地縁団体、町内会に限らず地域に根ざしたものとしてまとめたいと考えている。施策としては、方針の柱2-②・③で、組織がないところでも、気軽に参加出来る、隣近所と顔を合わせるにより輪を広げていただきたいという趣旨で整理をさせていただきたいと考えている。

○委員長

「コーディネート」や「テーマ型組織」等の用語の説明については、今の地域づくりの世界では当たり前に使われている言葉だと思うが、ご指摘もあるので、用語集まではいかなくても注釈や説明を付け加えていただきたい。

○委員

13ページに担い手についての記載があるが、NPO法人についてほとんど記載がない。地域課題のテーマによっては、本格的な団体でないと対応できないものもあるが、「担い手」について記載されているのは町内会とそれに関係するような団体など身近なものしか記載がない。本格的な地域課題を解決するとなれば、法人は重要な担い手だと考える。民間企業でも地域のごみ拾いを行っている会社もあるので、そういう団体の記載がないのは少し不満かなと思った。

○事務局

NP0 法人の記載はないが、19 ページにある各種団体のところでまとめさせていただいている。

○委員

法人であることは重要な要素のため、NP0 法人についても記載していただきたい。

○事務局

NP0 法人については様々な目的で非常に幅広い活動をされており、個々を定義することは難しいが、案へ持ち上げる段階で、NP0 法人については具体的に触れていきたいと考えている。

○委員長

各種団体の中で具体的な法人格を挙げてよいのではないか。NP0 法人や企業等を示すだけでもイメージは変わると思う。

○事務局

そちらの方向で検討したい。

○委員長

ご指摘のとおり、NP0 法人の重要性については、国の方針等でも入っているので、示しても良いと思う。

○委員

17 ページの図を見ると、やはり何らかの団体とか組織に帰属していないと繋がりが持てないような印象が強い。今の若い人は SNS や LINE 等で、個別に繋がっていくという志向が高いため、ある所に帰属するのではなく、自分の気持ちが動いた時に、そこに参加して潔く辞めていくような関係性の方が強くなっているのでは、難しいとは思いますが、この図の中にそういった自由で流動的なものもここに反映できるといいと感じた。

各種団体についても、「地縁」聞くと、昭和の時代のような印象非常に強く感じてしまうので、もう少し広いカテゴリーでイメージがわくような言葉が使われた方が良いと思う。

また、18 ページに主な担い手には次のことが期待されますとあって、いきなり地域住民で自助という言葉が出てくる。この自助共助公助については、社会一般に問題がある言葉と指摘されているところで、先に公助があって共助、そして自助じゃないかという意見があると思う。地域住民としていきなり自助が出ているので、これはインパクト強い気がして、あえてここに自助共助公助を入れる必要があったのだろうか。

読んでいくと市および関係機関等は公助だけでは対応できない、自助で頑張ってくださいと読めないこともない。これは対等の立場で市とコミュニティが一緒になって頑張ろうという話なので、考慮願いたい。

○事務局

個人の繋がりにについては、市が行う地域コミュニティへの支援の方針という形でお示ししたいと考えている。現実的に個人間の繋がりというのが非常に多くなっていることは認識しているが、市からの支援としてはどうしても、地縁というのを切り離すことが現実的には難しいということで、こういった表現となっている。

自助共助公助については、総合計画の方にも記載があったかと思うので、表現とあわせ総合的に検討させていただきたい。

○委員

コミュニティに対する市の支援ということであるなら、例えば17ページ(2)の構成主体の説明をもっと厚くするべきと考える。個人が気軽にコミュニティに入って関わるために団体に帰属するというのは非常に重い。そのサポートすることは団体にはできないので、個人とコミュニティをつなげることのサポートは市がやるという文言があればいいと思う。

○事務局

漏れていた視点なので、是非取り入れてさせていただく方向で、検討させていただきたい。現在すでに市民活動支援センターでそういった活動しているため、その辺を軸に記載させていただければと思う。

○委員長

22ページ方針の柱2の①で、誰も取り残さない地域づくりと記載されているので、そういう参画の仕方をしたい人も取り残さないということも含まれると思うので、ぜひお願いしたい。

もう一点の自助共助公助の点については、本来であれば民主主義の根幹・基本であり、公に私達が支配されるのではなく、市民が主体という言葉だが、イメージが変わってきてしまっているので記載の仕方をうまく工夫をしていただきたい。

○委員

前回から大分わかりやすくなってきており、総合的な考え方が明確になってきていると思うものの、総合計画から基本構想、基本計画、実施計画とあるが、基本方針とこの実施計画が具体的にどのように連携して繋がるのかがわからない。

基本方針が実施計画まで縦に落ちるのであれば極めてわかりやすいが、連携の意味をもう少し掘り下げたほうがいいのではないかな。市民の立場から見てもそうだし、私自身からみても、実施計画にどのように反映していくか、基本方針の実現のために何をやるか、考え方やその今後の展開といったものがあれば、もう少しわかりやすくなるのではないかな。

また、市民活動支援センターについて、あそこに事業が落とし込まれた際、具体的な施策と方針のアンマッチが起こるのではないかと感じた。

○事務局

市の総合計画については、令和3年から令和12年までの総合計画、今年が一年目で、非常に大きな計画になっている。総合計画策定の時点で盛り込めなかった部分と含めまして、この基本方針で、取り込めればということで、こういった形をとらせていただいている。

○委員

基本方針はいいと思うが、具体的な連携のところを配慮した考え方をとっていただきたい。

○事務局

実施計画で各課の事業が表記されているが、実際コミュニティに関する事業というのが各課においても、今現在既に実施されているものもいくつも存在している。方針にあっては、それに対する、体系図的にこの3本の柱それぞれによってこの事業を実施して行くというようなところでの紐付けまでは考えてはいない。あくまでも実施するにあたっての方向性として項目立てをまず考えていきたい。

体系図については、分かりづらい部分もあるが、あくまでもこれは基本方針の繋がりの部分での表記というような形で、こちらに関しましては別途何かの機会でも説明の方はさせていただきたい。方針の中で各実施計画との繋がりを細かく表示することは難しいと考えている。

○委員

前回いただいたときよりもだいぶ整理されて見やすくなってわかりやすいものになっているとは

思うが、最初の基本方針策定にあたってのところが腑に落ちない。全体的な状況が書かれているが、だからどうするのがどこにも書いていない。

構成でいくと最初の『基本方針の策定にあたって』というところが重要で、市が何でこれを作るのかということが、もう少し記載があると良い。

第2章のコミュニティの現状のところはしっかりアンケート調査をされているということで、このボリュームがかなり大きい印象がある。このアンケート調査はすごく大事で、この調査の結果から、どういう分析を市がされて、何が重要課題だと思ったから、基本方針に基づいて政策を実施していくという一番大事なところが、読み取れない。

第3章の基本方針についても、市が地域コミュニティを支援するための基本方針だが、そのスタンスが感じられない。言葉が上滑りしているような感じがして、自分ごとに感じない、もしくは市の職員が自分ごとに感じているのか疑問である。

一つ一つ施策の方向性をここで表現するのは難しいかもしれないが、だからどうなのか、どう支援するのか、というのがもう少し具体的にイメージできるような書き方をしたらもっと良くなるのではないか。

○事務局

大きく構成そのものを見直すのは非常に厳しいが、第3章の方針の柱の書き方についてはわかりづらい表現になっている部分もあるので、表現の方法については見直しをさせていただきたい。

○委員

構成自体は変えなくてもいいが、中身をもう少し掘り下げて書くといった事は出来るのか。

○事務局

検討する。

○委員長

第2章について、アンケート調査の結果から出た問題や、解決しなければならない課題といったものを、第2章の最後で整理するだけでも随分構成の形が変わると思うが、そういった作業は可能か。

○事務局

骨子案の段階ではそういった構成をとっていたが、庁内検討委員会から、わかりづらいという指摘を受け、課題認識のところでお示ししている。

○委員長

アンケート結果のまとめを記載することは可能か。

○事務局

検討する。

○委員長

アンケート結果から、何に注目すべきなのか、どこが大事なのかは読む人によって違うので、主体的に書く側が示さなければならない。アンケート結果をまとめれば違和感が軽減されると思うので検討していただきたい。

○委員

そういう風にまとめれば、市がどういうところに問題意識を持っているかまとめるだけでも、今後私たちが協働事業の審査をしていくところでも役に立つと思う。

○委員

誰が誰に向かってまとめた方針なのかがわかりにくい。印西市総合計画の中で基本方針にあたるような項目が全部で30あるようだが、その中の一つが地域コミュニティの基本方針で、基本方針をまとめている市民活動推進委員会の委員長は推進課の方なのか。

○事務局

この会が市民活動推進委員会である。策定体制について、庁内検討委員会は市役所内で組織し、我々市の職員で主管課長が構成委員となっており、そちらで検討したものを皆さまにお諮りしている。

○委員

実施計画は主管部門が立案するのか、市の縦割り行政の中で各部門が実施計画を策定するのか。

○事務局

各担当課である。

○委員

担当課の施策の中に盛り込むということか。

○事務局

そうです。

○委員

地域コミュニティの基本方針、地域コミュニティの支援の基本方針、支援方針があるが、印西市における地域コミュニティの基本方針は何かとなった時に、どれが基本方針なのか戸惑うのではないかな。1ページの目的の部分に方向性を示すと記載があるが、方向性を示すことで成立しているのでそれでいいと思うが、目的に沿って何をするのか、というものが方針なのではないかと考える。目指す姿は出ているが、それに向かって何をするのか示されていない。地域活動の目指す姿の実現、目指す姿を具体化する中で、市民の役割と市の役割で具体的に取る方向付けがあると、基本方針になるのではないかと考えている。

○事務局

この方針はあくまでも今期の方向性を示すであり、ここで個別の施策に触れることは考えていない。

○委員

地域コミュニティの基本方針が、行政と一緒に実現するとなるとわかりやすい。

○事務局

それぞれのやっていくべき姿や、やっていくべき事など定義するところではあるが、あくまでも今回の策定の目的は、地域づくりを支援するための政策の方向性を示すということを目的に作成した。確かに方針のタイトルと、最後に落とし込むところが支援の方針という風になっているので、違和感があるかもしれないが、策定の目的は支援をするための方向性を示すもののご理解頂きたい。

○委員長

基本方針の捉え方は、行政と市民の間でずれてしまうことがあるので、第一章で強調して、施策の方向性を示すものだとわかりやすく記載があると、ずれは解消されるのではないかな。

○事務局

先ほどのご指摘とあわせて表現、見せ方を工夫する。

○委員

目指す姿のために何をするのか、わかりやすくしていただきたい。

○委員

第2章と第3章を入れ替えたらわかりやすいのではないかと。17ページの図もわかりにくいので、時計のようなイメージで、真ん中にテーマを置いたらどうか。それらをとりまとめるのがコーディネーターなので、25ページに、コーディネーター確保の方策について追記していただきたい。また、市民参加推進会議があるが、こちらはこの方針と関わりがあるのか。最後にアンケート調査を出した際の男女の数は把握出来ているのか。

○事務局

まずアンケート調査は無作為である。市民参加推進会議については、庁内の全ての部署での市民参加状況、例えば委員会や、審議会の開催状況、パブリックコメントの実施状況といったものを取りまとめて報告や意見を頂く場となっており、方針については、そちらには諮っていない。17ページのイメージ図については、あとで見せていただきたい。構成の見直しについては、非常に難しい。

○委員

構成の見直しは難しいとのことだが、アンケートのまとめが繁雑になるのであれば、アンケートの部分を資料編にして、その資料をもとに、各項目において書き込んである部分をどこの資料から読み取ったかを対比して読めるといいのではないかと。資料として把握した上での基本方針だと見えるように工夫が必要である。この構成では第二章とアンケートが浮いてしまっている。

○事務局

検討させていただく。

○委員

印西市地域コミュニティ基本方針を作成して、今後どのような行動に繋げていくのか、どのような位置づけになっているのかと考えたとき、第1章の計画の位置づけしか見受けられなかった。

それで基本方針を具体的に見ると、「務めます」「促進します」「図ってまいります」、という表現で留まっているので、これに沿って具体的にどのようなアクションを起こすのかが、重要な部分だと思う。次のアクションをどういう形でつなげていくのかといったところで、第1章の総合基本計画と今回の基本方針を連携するといった風に、言葉だけでまとめられていると感じた。

今回この基本方針を具体的に前に進めるためには、人材育成というものが非常に大切になると思うが、そういった部分が今回の基本方針では弱いと感じる。基本方針の中に入れるのか、次の行動のアクションプランのような形で、具体的に示すのかはこの場では判断しがたいが、やはりこの基本方針を使って具体的に何を目的としているのかを、まとめとして記載があるといい。

○事務局

人材育成の部分については、この方針の中で触れていない。ここでお答えすることは難しいが、方針のどこかで触れることができるか検討したい。

○委員

基本方針の中に盛り込むという考え方でなくても、1つのプロセスとして、これからアクションを起こしていく中で、こういう取り組みが必要である、といった風に最後のところでまとめて、次の展開として表現するよう検討いただきたい。

○委員

25ページの市民活動支援センターについて、かつて市民活動支援センターの運営に携わっていた経験から言うと、こういう仕事に市民活動支援センターは対応できるのかと正直思っている。スタッフとしては施設管理が中心なので、コーディネーターはいるが、市民活動全般に目配りしてコーディ

ネットをするというのは相当組織を充実させないと難しい。他にも各コミュニティセンターがあるが、やはり施設の管理が中心なので、コーディネートをするまでの能力がある人がそろっているとは思えない。色々なところで、スタッフの充実というのは相当欠かせないと思う。このままだと支援センターに仕事を付けてそれで終わりで、支援センターからするとこれは大変なことになると言うような印象を持たざるをえない。

しかも指定管理制度なので、一定年数が経つと、指定管理者どんどん変わっていく可能性がある。そうすると、その中で恒常的にコミュニティの維持を考えていけるのか懸念している。

○委員

24ページの、「すべての市民、地域に共通するテーマの協働」の中で、防災計画の関係や、地域福祉計画とその他のこの協働の推進と書かれていて、この辺が重要なと思っている。というのが、全体を見ると、皆さんのご指摘のように曖昧なので、地域コミュニティとは、と疑問に思ってしまう。防災や福祉という、市民にとっても関心も高いところを、根幹を固めて、運用するうえで共助といった部分に繋いでいくというような趣旨だと思うが、読み取りにくかった。

基盤はしっかりとして、さらに発展して行く上で、こういう活動を求めます、といった記載の仕方が良いのではないかと。私見ではあるが、コアとなる活動があって、その上に市からのメッセージが乗っかるとすると、やはり防災のようにかなりシステムが出来上がっているものと連携を深めていくと、市民側からしても、とっつきやすい気もする。

どう取り組むかという視点で、もう少し強くメッセージを打ち出していただいた方が腑に落ちる。

最終的なこの目標は、地域コミュニティに関わる人数を増やすということか。

○事務局

はい。

○委員

今度、どのように計測していく方針なのか。

○事務局

町内会・自治会への参加世帯数、市民活動団体・支援センターに登録している活動団体については、統計資料で毎年公表している。

○委員

アンケートだと7割となっているが。

○事務局

町内会の組織率は6割ぐらいである。

○委員

継続する中では、大きな目標値の確認が必要だと考える。

○事務局

方針の中で具体的な施策を示していないのでそれぞれの目標は難しいところだが、実施計画策定にあたっては、実施目標を設定した上で検証を行っている。

○委員

地域コミュニティに直結する実施計画はないのでは。

○事務局

現状はない。わかりやすい数字としては、町内会の加入率、加入世帯数、市民活動団体の登録数で

ある。

○委員

個人として活動に参加したカウントはどうするのか。

○事務局

現状ではその指標は持っていない。

○委員

防災組織に関わる別の課があるのか。

○事務局

自主防災組織は防災課の所管である。

○委員

自治会は。

○事務局

自治会・町内会については市民活動推進課である。

○委員

それぞれ担当課でやっている仕事があると思うが、市民活動推進課がどのような横串を入れるのか、市民から見ると縦割りの話ばかり下りてきて連携が取りづらいので、上手く横串を入れていただきたい。

○委員

25 ページに施策の方向について、市民活動支援センターが推進を図っていく対象はテーマ型組織なのか。町内会も含めるのかが、少しわからない。

どの範囲で市民活動支援センターがコーディネートするのかというところが読みきれないのでお教えいただきたい。

○事務局

市民活動支援センターについては、現状でも町内会が登録されている。

○委員

ここに出てきた地縁団体、各種支援団体全部を含めるということか。

○事務局

現状市民活動支援センターでは、町内会等についても団体の一種という位置付けである。

（２）令和３年度及び次年度の企画提案型協働事業について

《事務局報告》

資料２－１、資料２－２、資料２－３、資料２－４、資料２－５及び当日配付資料により、令和３年度印西市市民活動支援センター指定管理者事業計画について説明した。

《委員意見》

○委員長

来年度は企画提案型協働事業を従前どおり募集をかけるということで、コロナ禍の中、非常に厳しい状況が続いてきたが、再開ができれば非常にありがたい。今後については不明瞭な状況ではあるが、従来どおりのやり方ができれば良い。

一点、取り上げるべきと思うのは、この令和３年度実施事業分、ソーシャルサポートこむねっとの

事業になる。

コロナ禍の中ほとんど事業ができないという状況で、非常にご苦労されたと理解しているが、コメントを拝見する限り、協働に関して非常にうまくいっていなかったというようなコメントが書かれている。

やはりコロナ禍ということもあり、事業がそもそも計画どおり進まない中で、行政側と市民側がどれぐらいきちんと意思疎通ができていたのかと思う。事実関係は存じあげないが、何らかの形で意思疎通をきちんとし、両者がお互いを気持ちよく仕事を進められるようなコミュニケーションが必要だったのではないかと。両者でしっかりコミュニケーションをとることに尽力いただきたい。非常に残念な事態ではあるので、今後の協働事業ではコミュニケーションをきちんと取っていくことをぜひお願いしたい。

概算の前払いの話に関してだが、色々なところの協働でよく起こる事情である。団体側でもどういう形であれば、事業をやっていく上でお金を担保することができるのか。市側も何らかの形で概算払いする制度、他の自治体でも多数実績があるが、それを作り得るか、また概算払いができない場合は、何らかの形で、地域の金融機関から融資を受けるというような、これはもう行政の協働事業の契約ができてい以上、融資を受けられるような制度を金融機関が持っている場合もあるため、その辺りも含めてご検討いただく必要があると思っている。

また、審査員に対して非常に厳しいコメントが市民からきているということに関しては委員会として、素直に真摯に受け止める必要があると思っている。どういうことに対して疑問を持たれたのか、具体的な事例がないので、審査プロセスの中の何に問題を感じられたのかはよくわからないが、少なくとも市民がそういう感想を得たというようなことは事実である。次年度以降、委員会は従前どおりの審査をしていくので、こうした誤解を招かないような、あるいは不信感を持たれないような審査体制を作っていく。

印西市の企画提案型協働事業に関しては、他自治体と比べてもかなり丁寧な審査プロセスを取っていると理解をしている。そのためすぐにこの点が問題だったのであろうかというようなことが指摘できる状況にはないが、襟を正して、今後も審査活動をして行く必要がある。

(3) その他

○事務局

今回は3月上旬もしくは中旬を予定。

3. 閉会

令和4年1月12日に行われた、令和3年度第5回印西市市民活動推進委員会の会議録については、事実と相違ないため、これを承認する。

令和4年2月15日

会議録署名委員 粉川 一郎